

Tazaki 財団英国留学支援奨学金
留学報告書

所 属 (本 学)	物質理工学院 材料系 エネルギーコース		
氏 名	川合 祥紀	留学時の学年	修士 1 年
渡 航 先 国	グレートブリテン及び北部アイルランド連合王国		
渡 航 先	ケンブリッジ大学		
渡航プログラム	Summer Exchange Research Program		
渡 航 期 間	2022 年 Year 6 月 Month 15 日 Day ~ to 2022 年 Year 9 月 Month 15 日 Day		

① 留学先大学(機関)の概略

私は、Summer Exchange Research Program でイギリスのケンブリッジ大学に3ヶ月間の留学をしました。イギリスは、君主制や産業革命、科学の発展において長い歴史を持っています。また、イギリスは、現在世界共通語として使われている英語を生み出した国でもあり、過去には大英帝国として世界各国を植民地としてきた歴史も持ちます。イギリスは、その歴史からイングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドの 4 つの Nation から成る 1 つの Country です。ただし、本報告書ではグレートブリテン及び北部アイルランド連合王国の呼称を便宜上イギリスとして表現することにします。

ケンブリッジ大学は、800 年以上の歴史を持つ、ケンブリッジの町に広がる世界トップの大学です。ケンブリッジ大学は、ノルマン征服からおよそ 150 年後の 1209 年のジョン・クランドン王時代に誕生しました。ケンブリッジ大学は世界最古の大学の一つでもあり、2022 年の THE 世界大学ランキングでは 5 位に位置する大学です。

ケンブリッジ大学は、著名な卒業生を輩出し、科学での重要な偉人らとの関わりも深い大学です。有名な卒業生は、力学の祖であるニュートンが挙げられます。また、ケンブリッジ大学はジェームズ・クラーク・マクスウェル、ブラッグ、J. J. トムソン、ラザフォード、ワトソンとクリックなど理系の教科書に必ず載っている偉人との関わりも深い大学です。そのために、これらの偉人に敬意を表した、J. J. Thomson Avenue や、Francis Crick Avenue などの道がケンブリッジには多くあります。

ケンブリッジは、歴史的な建物と豊かな自然の調和の取れた、ロンドンへのアクセスも非常に良い町です。ケンブリッジの家はどれも美しく、赤れんが調、テューダー調やヴィクトリア調の美しい家が並んでいます。特に、町の中心にあるキングス・カレッジのチャペルは個人的に一番好きな建物です。また、ケンブリッジには美しい広大な公園や、牧草地も多く、放牧された牛が街の公園にいる景色をよく見ました。さらに、ロンドンキングス・クロス駅からケンブリッジまでは、Great Northern を使って最短 50 分で移動でき、移動時間はロンドン郊外に移動する時間とほぼ変わらない程の、便利な立地になっています。そのため、土地の値段は高いですが、その分富裕層が多く、町は非常に綺麗で治安も良いです。



図 1 キングス・カレッジの写真

私は、東工大では一次元ナノ材料の研究をしている松本研究室 (<http://www.op.titech.ac.jp/lab/matsumoto/index-j.html>) に所属していますが、今回の留学では二次元ナノ材料の研究で世界的に有名な Prof. Hasan の Nano Engineering Group (<https://www.nanoengineering.eng.cam.ac.uk/>) に所属しました。Prof. Hasan の研究室は、ケンブリッジ大学の北西に位置する Cambridge Graphene Centre (CGC) という二次元ナノ材料に関する研究で世界最先端の研究所の中にあります。キングス・カレッジがある中心街とは少し離れた場所ですが、北西のキャンパスにはキャベンディッシュ研究所 II、ウィリアムゲイツビルディングなどの比較的新しい建物が多い地域になっています。

② 留学前の準備 大学院課程で留学した場合：

私は、修士 1 年の 6 月から 9 月の期間に留学をしました。理由は、比較的就活も忙しくなく、かつこの時期のイギリスは日が長く過ごしやすいからです。日本の夏の日没時刻は、19 時くらいである一方で、イギリスの夏では日没が 22 時と非常に日が長くなります。ただし、イギリスの冬は日出時刻が 8 時、日没時刻が 4 時と非常に日が短くなります。これは、ロンドンは北緯 51 度である一方、札幌が北緯 43 度とイギリスの方が北に位置しているからです。したがって、ケンブリッジでの生活を楽しめそうな夏の時期を選びました。また、6 月には 1Q が終わるために 6 月から 9 月の期間を選択しました。



図 2 夏のケンブリッジの夜 10 時の明るさ

③ 留学情報の入手方法、専門分野・語学の準備方法、留学先の研究室に所属した場合は、留学先大学の指導教員との準備、ビザ取得方法、住居の探し方など。

私は日本人なので、3 ヶ月間の滞在期間ならばビザなしでイギリスに入国できます。ただし、ケンブリッジ大学が、入国審査の時に私が留学生であることを証明する Visitor Visa を送付してくれました。入

国審査に関しては、日本からロンドンヒースローへの入国時は、e-ゲートを使えたので入国は非常に楽でした。ただし、フランスからイギリスへの入国時は e-ゲートが上手く使えず、対面の審査の方に流されました。この時に Visitor Visa を提示して無事イギリスに再入国することができました。

留学前の英語の準備は、できる限り英語に触れて、実際に使われている英語を読んで吸収しながら学びました。例えば、アメリカの雑誌の『TIME』や、自分の興味に合う洋書を丸善や紀伊國屋書店で手に入れて毎日読み続けました。この際に、すべての単語や構文理解を徹底的にすることで、文法や語彙の基礎固めをしました。東工大の研究室のゼミでも、英語の教科書や論文を読む機会があったので以上のことを同様に意識して取り組みました。留学前の TOEIC の点数は 750 点とそれほど高くはありませんでした。

また、留学前の専門知識の学習は論文や教科書を読んで準備をしました。幸いなことに、受入側の教授 Hasan がインクジェットに関する本や、3D プリンティングのエアロゲルに関する総説を出版していたので、それらを読んで準備をしていました。

④ 留学費用 渡航費、生活費、住居費、保険料、奨学金の有無など。

渡航費:20 万円

生活費:20 万円

住居費:25 万円

保険料:5 万円

今回の留学では、Tazaki 財団英国留学支援奨学金で、渡航準備費用 30 万円、毎月 20 万円の奨学金を頂きました。5 月までは、SERP からの奨学金いただく予定でしたが、ウクライナ事情による航空費用の値上がりと円安によって経済的に困ったため Tazaki 財団様に応募させていただきました。私が留学した時期は、£1 が 165 円という円安の状況でした。Tazaki 財団様のお陰で、資金にも余裕ができたため、イギリスでしかできない経験をすることに投資をさせて頂きました。全体の出費は 100 万円以上かと思えます。

⑤ 留学先での住居 寮の有無、申し込み方法、ルームメイト、その他。

私は、ケンブリッジ大学が運営している Cambridge Accommodation に登録して大学が推奨する家を探しました。また、Spare Room というアプリでも家を探しましたが詐欺がいたり、なかなか良い家も見つからなかったので使うのをやめました。ケンブリッジは非常に人気な町であるのに対して、家の数は少ないです。どの家も広々としたガーデンを持ってるので、その分家の数が限られてきます。ケンブリッジの家賃の相場は£700~800(10 万円前後)で、渡英一週間前までに 10 人以上の大家さんに連絡を取りましたが、全て断られていました。オンラインでしか連絡と内見ができないこと、滞在期間が 3 ヶ月と短いことが非常に不利だと感じました。最終的には、渡航の一週間前に、月£495(約 8 万円)のシェアハウスに住むことが決まって運が良かったと思っています。大家さんとハウスメイトも非常に暖かく、立地も良いので運が良かったです。大学の College の寮の家賃は月に£700~800 が相場であるので、より安いこのシェアハウスに住むことができて良かったです。

私がシェアハウスをした家は、ケンブリッジ南部のアデンプルックス病院の近くにありました。ケンブリッジの南側には、アストラゼナカの本部があるなど、生物系の色が強い地域です。CGC に通うときは、ケンブリッジを縦断する Universal bus の 28 日で£28 の定期券を使い、毎日バスで 50 分かけて通学していました。家は、大家さんとハウスメイト二人とシェアハウスをしました。家では、週に 3 回程度の頻度と一緒に夕食を食べたりするなど楽しく過ごすことができました。大家さんには、料理のやり方やケンブリッジでの生活の仕方も教えて頂き非常に感謝しています。休日には、ケンブリッジと一緒に散歩や買い物をも一緒にしました。

⑥ 留学先での語学状況

留学をしてから、イギリスアクセントに慣れるのは非常に苦労しました。なぜなら、イギリスアクセントは多種多様で、かつ米国アクセントとも違うからです。具体的には、イギリスのアクセントには、BBC で話されている RP アクセントや、地域別の Cornwall アクセント、Welsh アクセント、Scottish アクセント、

Manchester アクセントなど多くあります。その他にも、Posh アクセント、Geordie アクセント、Estuary アクセントなど非常に多種多様です。現地の人曰く、村単位でアクセントが違っているほど多種多様なそうです。幸いにも、イギリスの約 30 箇所を訪れることができたので、多くのアクセントを経験できました。留学して 3 ヶ月後には RP アクセントには慣れることができ、私のお気に入りの英語のアクセントの一つにもなりました。イギリスだけでも、多種多様な英語のアクセントがあることを知ったことで、英語への視野も広げることができました。

⑦ 留学中の勉学・研究 授業登録の有無、授業や研究方法についての感想。

研究は、設定した目的を達成できるように、毎日自分で考えて、試行錯誤しながら手を動かして実験しました。毎週一回は教授とのミーティングがありましたが、8 月中は教授が出張のためにスライドのみを Share Folder に共有するだけでした。最終的には、初めに設定した研究の目的を達成することもできたので良かったです。

研究室には、Ph.D. やポスドク、または他大学の教授がいました。どの方も暖かい優秀な方々ばかりで非常に良い刺激を受けました。Leicester への研究室旅行にも参加させてもらえ、論文を多く出版しているポスドクの人などと直接話すこともでき、非常に刺激的な経験でした。また、CGC では毎週金曜日に、オックスフォード大学やミュンヘン工科大などの他大学からの研究者の 60 分間の対面講演を聞くことができました。お手本になるような、英語でのプレゼンテーションを毎週聞くことができ、非常に良かったです。また、質疑応答でも鋭い質問で議論が盛り上がりたりするなど CGC のメンバーの優秀さには舌を巻きました。さらに、東大の先生の講演も 3 回ほど聞くこともでき、非常に流暢な英語でのプレゼンに圧巻されたことを覚えています。この東大の先生方のようなプレゼンのレベルが私の一つの目標だと思いました。

⑧ 留学先で困ったこと(もしあれば)

CGC に到着して在籍登録をした直後に、ケンブリッジ大学から £500 の Bench Fee の請求をされました。海外の研究機関では、設備運営のために受益者から Bench Fee を取ることは一般的なようです。しかし、本留学のプログラム側に相談した所、協定要件上 Bench Fee などの請求はされないはずとのことでした。プログラムの方から、ケンブリッジ大学側に掛け合ってもらったことができたので、結果として請求は 0 になり良かったです。

⑨ 留学中に行った勉学・研究以外の活動: ボランティア、インターンシップ、旅行、スポーツなど、幅広く体験を記入してください。

週末は Brit Rail パスを使ってイギリス周遊旅行をしました。Brit Rail パスは非イギリス人が購入できる National Rail が使い放題になるパスです。私は、ファーストクラスパスをユース割引で購入して使い倒しました。イギリスの電車の切符は日本と比べても異常に高く、ファーストクラスの切符を購入する場合、スタンダードクラスの 2 から 4 倍以上高くなります。また、イギリスの電車は評判通り、遅延やキャンセル、ストライキも多く、切符を買った場合はフレキシブルな計画修正がやりにくくなります。さらに、スタンダードクラスは混むので 1 時間以上座れないこともよくあります。イギリスの電車は日本とは違い、皆さん大きな声で話したりと、騒がしいので立ちながら 1 時間乗るのはなかなか辛い時間になります。

しかし、私は Brit Rail のファーストクラスパスを使っていたので、キングスクロス駅、ユーストン駅、パディントン駅などにあるファーストクラスラウンジを旅行の日は使い放題で、全ての電車のファーストクラス席に座れ、サービスも受けながら快適な電車旅ができました。目的地で疲れ切って、ファーストクラスの電車でリラックスしながら帰るというのは非常に作戦だったと思います。また、BritRail pass を持っていると、イギリスの二つしかない寝台列車の Night Riviera や Caledonian Sleeper の割引もあったので非常にお得になります。

電車旅をして驚いたことは、イギリス国内の電車には日本の日立製の車両が非常に多いことです。日立は、ロンドンキングス・クロス駅からスコットランド側に向かう LNER Azuma、ロンドンパディントン駅

から西側に向かう GWR、そしてマンチェスター駅からスコットランド側に向かう TransPennine Express の車両を作っています。幸いにも LNER Azuma と GWR のファーストクラス席を利用することができましたが、日本の新幹線の車内を彷彿させるような席であり快適でした。

様々なファーストクラス席を使いましたが、一番良いと思ったのがロンドンユーストン駅からマンチェスターやウェールズに向かう路線 Avanti West Coast です。Avanti West Coast のファーストクラスでは、アルコールから飲み物、サンドイッチなどの料理が提供され、サービスも非常に良いと感じました。ファーストクラスラウンジも、Avanti West Coast のラウンジが一番品揃えも豊富でした。LNER も、サンドイッチやアルコール等の飲み物のサービスもありますが、ファーストクラスの定員が多いため、一人当たりのサービスの回数は Avanti West Coast より少ないと感じました。GWR のファーストクラスでは、スナックと飲み物のサービスのみでした。これら以外にも、Great Northern や South West Railway などのファーストクラスを経験しましたが、特にサービスはなく席が確保されているだけでした。また、主要路線から外れるほど車内の警備も薄くなり、騒がしくなっている傾向にあると感じました。



図 3 a) London king's Cross 駅、b)駅の内観、c)LNER Azuma、d)LNER のファーストクラスラウンジ

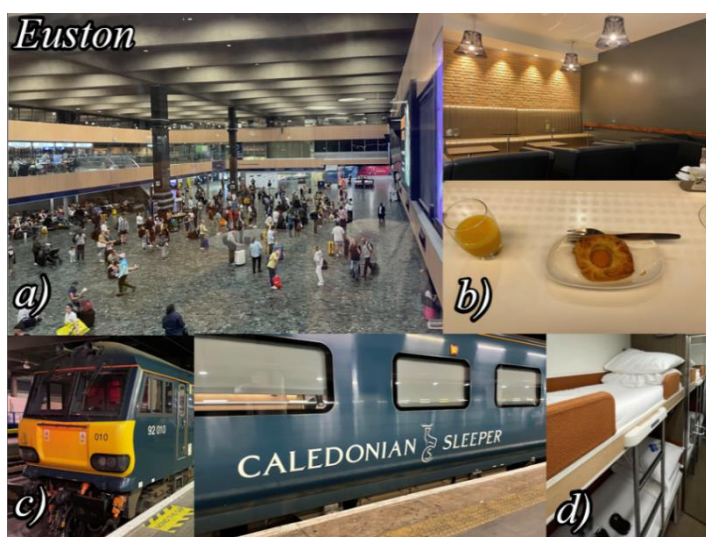


図 4 a) London Euston 駅、b)Avanti West Coast ファーストクラスラウンジ、c) Calednian Sleeper、d)Calednian Sleeper のキャビン



図 5 a) Paddington 駅、b)Cornwall への寝台列車 Night Riviera、c)Night Riviera のキャビン、d)ファーストクラスラウンジ、e)Great Western Rail のファーストクラスラウンジの内装。Victoria 女王が待合室として使ってた歴史を持つ。

土と日曜日にそれぞれ二箇所の場所を巡ったため、結果的に 27 の観光地を周遊することができました。具体的には、London, Brighton, Seven Sisters, Rye, Canterbury, Dover, Hastings, Battle, Winchester, Southampton, Portsmouth, Stone Henge, Penzance, St. Ives, Plymouth, Durdle Door, Bristol, Oxford, Big Pit Coal Museum, Manchester, Liverpool, Caernarfon, Conwy, Llandudno, Edinburgh, Newcastle, York を訪れることができました。電車の乗り継ぎで利用した場所を含めれば 30 箇所以上の場所に訪れることができました。



図 6 訪れることができた場所。赤色のピンが訪れた場所です。

また、さらに eurail global first class pass でユーロスターを使いフランスのパリにも行くことができました。この時期の eurail global pass でのユーロスターの予約は人気だったため殆どの枠が埋まっており、早朝と夜の便しかありませんでした。結果的に、夜の便で St. Pancras International 駅からフランス・パリ北駅に行きました。ファーストクラスでは、Standard Premier 席を予約でき、食事とワインなどの飲み物のサービスを楽しむことができました。フランスでのホテルはパリ北駅周辺のホテルを取りましたが、パリ北駅周辺は治安は良くないため、到着後はタクシーでホテルに向かいました。その翌日には、凱旋門、エッフェル塔、ヴェルサイユ宮殿、ルーヴル美術館を巡り、エスカルゴやカエルの足やワインなどのフランス文化に触れることもでき良い経験でした。



図 7 パリで訪れたところの写真

また、ケンブリッジ大学の学生証を持ったことでの特典も多くありました。まず、キングスカレッジやケンブリッジ大学の植物園、フィッツウィリアム博物館や、二番目のキャベンディッシュ研究室に無料で入れたこと。さらに、本の割引、バス、博物館や城の入場時の学割の証明書として使えました。学生証は、ケンブリッジ大学への在籍登録をして約 1 週間で発行されました。

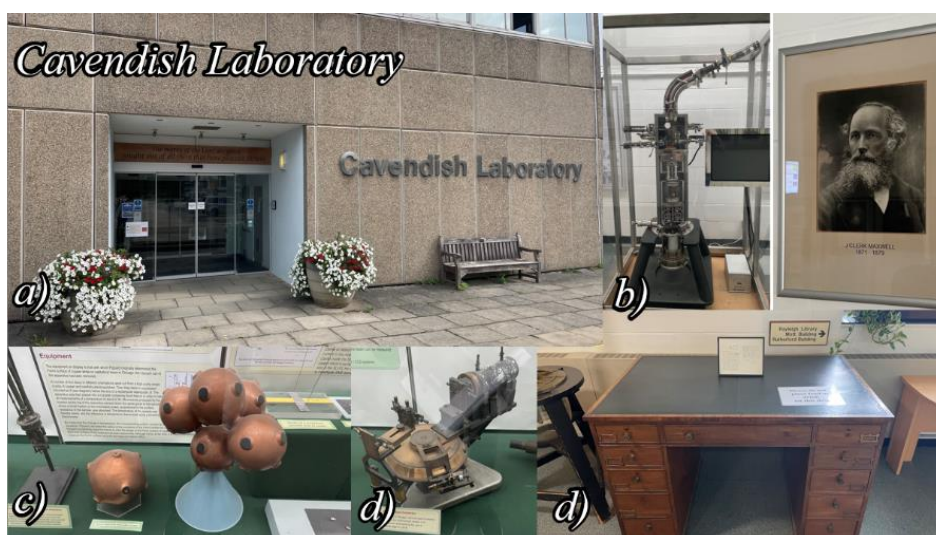


図 8 a)キャベンディッシュ研究所 II、b)研究所の博物館の電子顕微鏡の断面の展示、c)Cu のフェルミ面、d)Brag の分光器、d)Maxwell の使っていた机。ラザフォードの机は放射性廃棄物として処理されたとのこと。

⑩ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

今回の留学で自分の成長を実感した点は、**自分の視野を広げられた点だ**と思います。留学前は自分の専門分野に集中していました。旅行でアメリカや香港、ベトナムに行った経験はありましたが留学経験それまで無く、この海外経験の少なさを自分の短所だと思っていました。そこで、今回人生初の海外留学でケンブリッジ大学に行けたことは非常に運がよかったと思っていますし、また自分の視野を広げる良いきっかけになったと感じています。

特に、イギリスの文化や歴史を学んだことで、日本を留学前とは別の視点から眺めることができるようになりました。イギリスと日本が似ている点は、島国ということです。しかし、両国は飛行機で 14 時間かかるほど遠い国でもあり、地震の多さや、多民族との交流の歴史は大きく異なります。もちろん、英語や研究に対する視野も広げられましたが、異文化に触れることでの文化や歴史についての視野の広がりも経験できました。以下に今回の留学で視野が広がったと感じた気づきなどを紹介します。

1 つ目の気づきは、自然災害がその国の建築文化に強く影響を与えているということです。イギリス全土には、古いレンガ造りの教会や宮殿、城などの歴史的な建物が多く現存しています。さらに、普通の住宅の殆どがレンガ造りの家になっています。一方で、日本の住宅は、より近代的な鉄筋やコンクリートを使った建築様式の建物が多くあると思います。こういった建築文化の違いの理由は、自然災害の頻度によると気づきました。日本では世界的に見ても地震などの自然災害が頻繁に起きる国です。そのため、日本では新技術を取り入れ、自然災害に耐えるように設計された新しい家を建築してきたために、近代的な建物が多くなったのだと思います。イギリスのレンガ造りの家を日本に立てた場合、10 年以内には地震でレンガが割れ、家が崩壊する可能性が高いでしょう。また、日本特有の地震の多さが日本の木造建築技術を古くから発達させたことは確かだと思います。日本の木造建築技術は世界的に見ても有名であり、奈良の法隆寺は世界最古の木造建築として知られています。日本とイギリスの景観は全く違ったものですが、そのような建築文化はその土地の自然災害などの特徴に順応した結果なのだと気づきました。



図 9 イギリスの美しいレンガ造りの建物:カンタベリー大聖堂、ウィンチェスター大聖堂、ヨークミンスター、ホリールッドハウス、カナーク城

2 つ目は、今回の留学で歴史に対する興味が変化しました。留学前の私は、歴史にあまり興味のない理系一筋の人間でした。イギリス史は、英語の先生から少し学んだことはありましたが、イギリスは日本から遠く、身近でもなかったのがイメージするのが難しかったことを覚えています。しかし、今回の留学でチャールズ・ディケンズ著の『A Child's History of England』を読みながら、歴史的な場所を巡ったことでイギリス史に対する理解が促進され、興味が湧いてくるようになりました。

イギリスは、多民族との戦いを多く経験してきた国です。古代ケルト人からローマ人、アングロサクソン、ヴァイキング、ノルマンディ、スコットランド人などイギリスには多くの民族との戦いの歴史があります。そして、これらの戦いの歴史は、英語という「言語」やその国の「文化」にも大きな影響を与えてきました。特に、「ヘイスティングスの戦い」は、アングロサクソンがノルマンディに征服されフランス文化がイギリス文化に流入するきっかけになった戦いとして重要な出来事です。実際に、ヘイスティングスに足を運んで、その戦地に行き、解説を聞くことでヘイスティングスの戦いについて良く理解できました。また、こういった血みどろのイギリスの歴史を学ぶと、逆に日本の歴史に対して面白さを感じました。なぜなら、同じ島国であるにもかかわらず、日本は多民族との戦いはそれほど多くなかったためです。このように、今回の留学で歴史的な土地を巡ったことで、歴史に対する興味が湧きました。



図 10 訪れた歴史的な場所の写真(ストーンヘンジ、ドーヴァー海峡、ドーヴァー城、アルフレッド大王の像、ヘイスティングスの戦いの戦地)

最後に、今回の留学を通して日本の治安の良さを非常に実感しました。今回の留学では、週末を活用してイギリスとフランスを訪れましたが、電車内や路上での物乞いや、挙動が不審な人、建物への落書きを見かけました。現地の人に聞いてみると、物乞いをしている人などは薬物中毒者であることが多いそうです。日本ではこういった人や、建物への落書きを見ることも少なく、日本の治安の良さと綺麗さは世界トップだと実感しました。

また、日本の電車サービスの凄さを感じました。イギリスは、産業革命をきっかけにして世界で初めて鉄道を作った国として知られていますが、現在のイギリスの電車サービスには多くの問題があると感じました。例えば、突然のメンテナンスでの遅延や運休が頻繁に起きること、運賃が異常に高いこと、ストライキが頻発することです。一方で、日本ではこういった問題が起きることは非常に少なく、2 分の遅延でもアナウンスでお詫びをするかと思います。こういった違いは両国のシステムや文化の違いに起因していると思います。日本の鉄道は JR が一括管理をしていますが、イギリスの鉄道インフラは国が管理し、電車の運行は GWR、LNER、Great Northern など多くの鉄道会社が管理するシステムを取っています。したがって、日本システムのほうがダイヤの調整や線路のメンテナンスが簡便で、世界でトップレベルのサービスを提供できているのだと思いました。

まとめると、今回の留学を通してイギリスの文化や歴史に触れたことで、日本の文化や歴史を別の視点から眺められるようになったと思います。これらの気付きは、全てハウスメイトや大家さん、研究室のメンバーとの会話の中で気づけたことばかりです。英語で様々な人とコミュニケーションを取ったことで、もちろん英語力も向上できたと思いますが、新しい視点に気づくことができたなと実感しています。今回の留学経験は掛け替えのないものになったと思います。

⑪ 就職活動 留学先で行ったこと、また帰国後どのように活動する(予定)など。

私は、材料の中でも高分子材料に強い興味を持っています。なぜなら、高分子材料は日常に身近な材料であり、我々の生活を豊かにしている材料の一つであるためです。特に、高分子は軽量で成形加工が容易であることが非常に面白い特徴だと思っています。この特徴から、高分子は大面積の均質なフィルムや、溶融体を延伸または、高分子溶液を電界紡糸すれば高分子繊維を容易に作る事が可能です。さらに、高分子には化学構造の違いによって、強度がある高分子、耐熱性を持った高分子、イオンを選択的に透過する高分子など様々な用途に使える高分子があるというのも面白い特徴です。東工大では、高分子溶液に高電圧をかけて電界紡糸して作られる高分子ナノファイバーを取り扱っていますが、毎日非常に楽しく研究をしています。

そこで、私は将来高分子材料系の化学企業に就職したいと考えています。これまでの大学の研究では、工学部として実際に社会実装を目指しながら日々研究をしてきています。毎日、自分の研究して

いる材料が実際に社会実装されることを想像し、ワクワクしながら研究をしています。ただし、大学と企業では研究開発のスケール、社会実装へのスピードも全く違っていると思います。そのため、実際にこういった企業での材料の研究開発を経験したいと日頃から思っています。また最近では、多くの日系化学企業は海外に進出しています。そのため、もし海外で働ける機会があればぜひ海外でも働きたいとも考えており、今回の留学経験が将来活かせるだろうと思っています。

今回の留学をして一番胸に刻んだことは、世界には優秀な方々が沢山いるということです。「井の中の蛙大海を知らず」という言葉のように、留学前の私は日本という井の中の蛙状態でした。3 ヶ月という短い期間でしたが、できる限り多くのことを経験し、また CGC の優秀な方々と出会い、刺激をもらうことができました。今後も、これまでと同様に謙虚さを大切に日々精進していこうと思います。

⑫ 留学を希望する後輩へアドバイス

留学は自分の視野を広げられる良い機会だと思います。3 ヶ月間のイギリスへの留学なら、6 月から9月の期間が最適です。この時期は、学期の変わり目でもあるため比較的家も見つけやすいのではないのでしょうか。ただし、その家が住みやすいかどうかは、運まかせではありますが。また、留学では「ひきこもり」にはならず、様々な人との対話、冒険をしたり、アクティブに活動されると良いかと思います。本報告書が皆様の留学の参考に少しでもなることを祈っております。

⑬ 謝辞

今回の留学は多くの人に助けていただいた結果、毎日を有意義に過ごせた良い留学になりました。まず初めに、松本英俊教授には申請書から面接練習まで多くのご指導を頂きました。研究でも、懇切丁寧なご指導をいつもしてくださり非常に感謝しております。ありがとうございました。また、松本研究室のメンバーにも面接練習のお手伝いをして頂き、非常に感謝しています。ケンブリッジ大学の Hasan 教授も、私を受け入れて頂きありがとうございました。また、SERP の先生方には、今回の留学の採択並びに、Tazaki 財団英国留学支援奨学金に私を推薦していただきまして非常に感謝しております。また、留学後の Bench fee 問題に遭遇した際にも助けて頂きありがとうございました。また、大家さんやハウスメイトにはケンブリッジでの生活の仕方など教えて頂き大変感謝しています。渡英の一週間前に、この家を見つけられたのは非常に運が良かったと思っています。もしこの家に住むことができなかったら、同じような経験は決してできなかっただろうと確信しています。そして、Tazaki 財団英国留学支援奨学金を受給していただいた Tazaki 財団様にも大変感謝しております。ウクライナ情勢による円安によって、SERP からの給付金のみでは航空機料金のみで奨学金が全てなくなってしまうという事態になり、非常に困っていました。そんな時に、国際系の事務から Tazaki 財団の推薦応募のメールが届き、運良く採択通知を頂きました。まだまだ、未熟で至らぬ所が多い若輩者の私が、このような奨学金をいただけたことは非常にありがたいと思っています。この奨学金を頂いたことで、イギリスでしかできない多くの経験ができ、自分の視野を広げるきっかけにもなりました。改めまして、奨学金を受給して頂きましてありがとうございました。また、今回の留学では、大学の事務の方々など他にも多くの人にもご支援いただきまして、大変ありがとうございました。最後になりますが、父と母には感謝しています。初めての留学にあたり、様々な場面で父と母には支えてもらえました。